

NEWS!

Vol.33-1
No.172
平成26年1月号

編集・発行
松浦機械製作所

謹賀新年



明けましておめでとうございます。

昨年は、一昨年秋から続く対USドル、対ユーロの円安傾向が進んで、年初から輸出企業にとっては割りと良い為替環境でのスタートとなりました。そして7月ごろから相場も安定し、輸出比率の高い工作機械業界も3年連続で年間受注総額が1兆円台を越えました。本年も引き続き好調さを維持できそうな雰囲気がしております。

昨年マツウラは、5軸制御立形マシニングセンタ「**MX-850**」を開発し市場投入しました。ベストセラー機「**MX-520**」と同様に操作性に富み、より大型ワークに対応できると市場で高く評価されました。また、昨年は日本のみならず世界中で3Dプリンターブームが巻き起こり、マツウラの金属光造形複合加工機「**LUMEX Avance-25**」も金属粉末を使った積層造形と切削加工を組み合わせたハイブリッド加工方法として内外から大変注目を集めました。地道な改良を加えながら試作から数えて4世代目にあたる現行機には、今後商業的にも大きな期待をしております。

2013年4月より米国ミナソタ州セントポールにあるMatsuura Machinery USA Inc.を設立し、米国市場での販売・サービスをこの100%子会社に切り替えました。従来以上にお客様との距離が縮まり、販促活動や製品開発に対する声もより多く聞くことができ、好調な市況とも相まって業務運営は順調に推移しております。

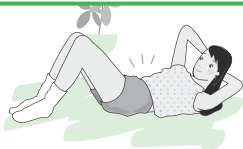
本年は、9月に米国シカゴで開催されるIMTS2014また10月に東京で開催されるJIMTOF2014と大規模な展示会が開催されます。既存機種の新更なるブラッシュアップや時代に合った新機種の開発を進めるとともに、あらゆる業務に関わるマツウラのクオリティーを一段と磨き上げるよう努力する所存です。

本年も引き続き、格別のお引き立てを賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

株式会社 松浦機械製作所
代表取締役社長 松浦 勝俊

日本のヘソ

福井 No.171



福井は日本のドマン中「日本のヘソ福井」第171回目は「天皇の料理番と呼ばれた秋山徳蔵」の話です。秋山は、明治政府が公式に正餐を西洋式に定めて以降、宮内庁の新設された洋食部門の初代理長に就任し、「天皇の料理番」と呼ばれ、55年間の長きにわたって日本の西洋料理の頂点にいた人物です。

秋山は、明治21年8月30日に福井県南条郡武生町（現在の越前市）に生まれました。実家は仕出し料理屋で、幼い頃から家業を手伝い料理の腕を磨いていました。そんなある日、地元に住屯する陸軍の宿舎で熱々に揚げられたカツレツを一口食べたことで、西洋料理のとりこになりました。そして、秋山20歳の時に、シベリア鉄道に乗ってパリへ向かいフランス料理の修業を始めたのでした。厨房では、日本人として馬

鹿にされましたが努力の結果、当時フランス料理の最高峰リッツホテルで働くことになりました。

秋山のフランス滞在中に、日本では明治天皇が崩御されました。ほどなく大正天皇の即位式が行なわれ、世界各国から招待客が参列される晩餐会が開かれることになりました。秋山は日本大使館に呼出され、大正天皇主宰の晩餐会で、西洋化を成し遂げ一等国にふさわしい最高の料理を出す使命を受け帰国したのです。秋山は26歳で、宮内庁の料理長に就任しました。

昭和に入っても、40年にわたり昭和天皇に料理を通して仕え続けました。昭和47年、秋山84歳で天皇の料理番を引退することを決意、料理を介さずに天皇からお言葉を頂きました。「長いあいだ、ご苦労だったね。これからも体に気をつけるように」と。そして天皇の前を退出すると声を上げ、男泣きに泣いたそうです。決して表舞台には出ませんが、料理という道に精進した秋山徳蔵を福井人として誇りに思います。

ユーザーを訪ねて

No.158

自社ブランドの眼鏡が グランプリを受賞した

今回のユーザーを訪ねては、JR福井駅から車で南へ10分ほどの青山眼鏡株式会社取材しました。取材には青山恭也会長と青山陽之社長にご対応頂きました。会社は青山会長の父・青山勝彦氏が昭和12年に創業していますが、その勝彦氏の父・青山彦左衛門氏が明治38年から眼鏡フレームの生産を手がけていました。青山彦左衛門の名前は、「さばえ人物ものがたり」（鯖江市教育委員会文化課発刊）に“眼鏡づくりの種をまいた鯖江の先駆者、鯖江で初めて眼鏡づくりに取り組んだ人物”として紹介されています。「会社としては3代目ですが、眼鏡づくりでは4代目になります」と青山社長。眼鏡枠には金属を使用した“メタルフレーム”とセルロイドを使用した“セルフフレーム”があります。同社は、セルフフレームに特化しています。現在材料はセルロイドの燃焼性が高いためアセテートに変わっていますが、セルフフレームと呼ばれています。



▲本社社屋

青山会長は、東京の大学で電気技術を学び、卒業後入社。「高校時代から学校が終わると近くの電気部品を扱う店に通い、カメラやラジオを作っていました。大学も眼鏡づくりと関係ない電気を勉強しました」と青山会長。青山社長は、青山会長と同じ様に電気に興味があり、高校では電気科に入学。福井の大学と大学院で経営とコンピュータを学び卒業後入社されました。「小学生の時に会社にアメリカのホライズンというパソコンが入りました。父と兄がゲームのソフト作り、私はそのゲームで遊んでいました。中学時代にFM-7のパソコンを買ってもらいプログラミングを始めました。学生時代も会社の独自ソフトを作るなどして手伝っていました」と青山社長。

数々の最先端技術に挑戦

古くは、セルフフレームの加工には眼鏡加工専用の“ならい加工機”が使われていました。平面状の素材にモデルにならって形状とレンズの入る穴と溝を加工し、その後プレ

スで円弧状に曲げていました。青山会長は、最後にプレス加工するために形状がゆがむので、材料をプレスで円弧状に曲げてから加工出来ないかと考えていました。そして、昭和44年に大手電気メーカーのCNC（コンピュータを使った数値制御）と浜松の会社と共同でセルフフレームを自動で加工できる機械を開発しました。青山会長の電気に関する知識が活かされた開発でした。

平成3年に「EYEFORM-21」という眼鏡フレームのオーダーメイドシステムを開発しました。大手メーカーが開発したレーザー光線による3次元測定装置で、お客様の顔のサイズを測定します。そして、パソコンで画像データを処理、お客様の好みに合ったフレームのデザインを設定し、データを同社に送ります。そのデータを基にセルフフレームを加工するので、お客様の顔にピッタリ合う、その人だけのセルフフレームが作れるシステムです。この開発では、青山社長は大学生でしたが、会長と一緒に開発に携わっていました。

その他にも加工専用のCAMや社内のシステムも青山会長、青山社長が独自で作られています。正に眼鏡づくりの先駆者青山彦左衛門の挑戦するDNAを受け継いでいると言えます。

マシニングセンタによるセルフフレーム加工

昭和55年11月に機械色が真赤なマツウラの立形マシニングセンタ「MC-500V1」を2台導入。セルフフレームの加工をマシニングセンタで行ったのは同社が福井県内で初めてでした。この機械の加工プログラムを青山会長がDOSのパソコンを使って開発しました。その後昭和63年に横形マシニングセンタ「MC-450H PC11」を導入。この機械は4軸加工が行えるのでデザインの複雑化への対応が容易になり、またパレットが11面付加されたシステム機なので夜間無人運転による生産性向上も実現しました。

平成17年には更なるデザインの進化に対応すべく5軸制



▲左から青山会長、青山社長。中央はグランプリのトロフィ

パリ国際眼鏡コンクールで 青山眼鏡株式会社

御立形マシニングセンタ「**MAM72-35V**」を導入しました。平成24年にも「**MAM72-35V**」を導入し2台の5軸加工機が稼動しています。「5軸加工機により、どのようなデザインのセルフレームでも加工出来るようになりました。デザイナーがより自由なデザインが可能となり、当社のブランドを**MAM72**は支えています」と青山社長。5軸加工データを創出するCAMシステムも青山社長が独自で作られ、現在も日々進化しているとのこと。

自社ブランド「Factory900」

眼鏡業界は分業化が確立されており、同社も長年OEM生産に従事していました。OEMの壁を破り自社ブランドを作りたいと決意し“XELF”というブランドをつくり販売を開始しましたが、現在はほとんど販売していません。新たな転機になったのは、他業種で会社勤めをしていた青山会長の三男青山嘉道氏の平成12年の入社でした。青山嘉道氏が中心となり新ブランド「Factory900」の強化を図り販売に打って出ました。「Factory900」の意味は、文字通り“工場番号900”です。眼鏡業界で工場番号の割振りをした時に同社の番号が900であったことが由来です。そして、青山嘉道氏はゴーグルタイプの斬新なデザインを作りました。この加工には5軸加工が不可欠です。タレントの宮川大輔さんが、このブランドの眼鏡を着用されて話題となっています。

自社ブランド眼鏡の販売は、大きな展示会に出品して、直接販売店との接触から始まります。同社も、東京ビッグサイトで開かれるアジア最大級の眼鏡国際展示会IOFTに出品して3年連続で各部門賞を受賞、3年目にはグランプリを獲得するなど着実に販売を拡大しています。



▲MAM72-35V 2台とMC-450H PC11

パリ国際眼鏡コンクールでグランプリ受賞

世界の眼鏡メーカーが参加する国際眼鏡見本市「SILMO

青山眼鏡株式会社 概要

本 社 〒919-0326
福井県福井市半田町9-8
TEL 0776-38-0003
FAX 0776-38-4433
U R L <http://www.factory900.jp>
代 表 者 代表取締役会長 青山 恭也
代表取締役社長 青山 陽之(たかし)
創 業 昭和12年
設 立 昭和44年9月
従 業 員 17名
事 業 内 容 セルフフレーム眼鏡製造販売



▲グランプリ受賞眼鏡

「(シルモ) 2013」が昨年9月にパリで開かれました。デザインの創造性や技術革新などで優れたものに授与される「シルモドール」という賞があり、そのサングラス部門で同社の「fa-1111」がグランプリを受賞しました。このグランプリは眼鏡界のアカデミー賞とも言われ、眼鏡界では最高の栄誉ある賞とされています。受賞眼鏡は、アセテート材の丸型のフロント枠の上下部分が前方に折り曲げてありレンズは丸型です。見る角度によりフレームの印象が変わる独特なものです。「シルモドールに3回目の出品でグランプリが取れました。世界の頂点の賞を頂き大変嬉しく思っています。しかし、この賞に甘んずることなく更なる挑戦を進める為に経営を現社長にバトンタッチしました。また妻と結婚する時に“世界一の眼鏡を作りたい”と語り、それが実現できました」と笑顔で語る青山会長です。

同社は、常に新しい技術に挑戦し実現していますが、その過程には大変なご苦労があったと思います。しかし、その苦労が今回のグランプリに結実したのではないかと思います取材でした。

メカトロテックジャパン2013(MECT2013)に出展



▲MX-850(操作性を説明)



▲CAD/CAMコーナー

平成25年度最大規模の工作機械・工具・機器関連の展示会「メカトロテックジャパン2013 (MECT2013)」が平成25年10月23日～10月26日の4日間、ポートメッセなごや(名古屋市国際展示場)において開催されました。今回は「世界を支える最高技術、これが日本の底力」をテーマに工作機械、塑性加工機、切削工具、測定機器、CAD/CAM/CAEなどの新製品から新要素技術まで、464社が最新のテクノロジーを展示アピールしました。また今回の特徴として124社が初出展で、製造業の復興を期待させるものでした。

「新しいモノづくりの実現」をテーマに

マツウラのブースでは、「新しいモノづくりの実現」をテーマに、はじめてでも安心・簡単・大型ワーク対応5軸制御立形マシニングセンタ「MX-850」を国内初出展しました。大型のロボットアームの加工実演を行い、加工能力の高さをアピール。また機械を停止してガードを開き、実際にお客様が接近性や操作性を体験していました。更に操作盤には15インチタッチパネル式による新オペレーティングシステムを搭載し、「運転」「段取り」「保守」の作業に必要なアイコンを表示して、ワンタップで簡単に画面切り替える操作性も高く評価されていました。

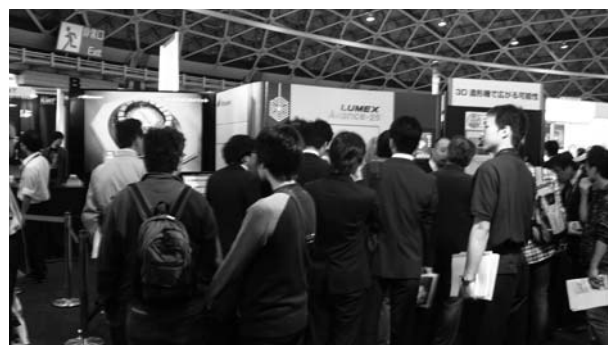
その他に、マツウラが提供するCAD/CAMシステム「GibbsCAM」の最新版V10.5、新発想のプログラム支援ソフト「TRUEPATH」などを出展し、「新しいモノづくりの実現」をこの展示会で実証しました。



▲マツウラブース

注目を集めた金属光造形複合加工機「LUMEX Avance-25」

主催者が企画した医療にスポットを当てたコンセプトゾーンに「LUMEX Avance-25」を出展しました。コンセプトゾーンのテーマは「日本の技術を医療で活かせ」で、各種の機械とサンプルが展示されました。「LUMEX Avance-25」では、「3D造形機で広がる可能性」と題し、チタン合金を使った3次元メッシュ構造の人工骨をイメージしたキーホルダー作成を実演しました。連日多くのお客様が実演を見学。またメディア関係の取材も多数あり注目を集めていました。



▲注目を集めたLUMEX Avance-25

金属光造形複合加工機「LUMEX Avance-25」の加工技術紹介

マツウラでは、金属光造形複合加工機を最新技術を取込みながら改良を重ね、現在で4世代目の機械となっています。また昨年3Dプリンターが米国オバマ大統領の演説やマスコミ報道で大きく取り上げられましたが、昨年6月16日（日）の日本経済新聞の1面に「家電量産に3D印刷機 パナソニック3割コスト削減」の中で、金属光造形複合加工技術が紹介され、金属粉末を使った3Dプリンターとして「LUMEX Avance-25」が注目を集めています。

世界で唯一の“光造形+切削加工”

「LUMEX Avance-25」は、ファイバーレーザーによる「金属光造形」とマシニングセンタによる「高速・高精度切削加工」をひとつのマシンに集約したものです。このマシンは、画期的な“ワンマシン・ワンプロセス”を実現し、世界で唯一マツウラだけの技術です。正に金属加工の革命と言えるマシンです。



▲LUMEX Avance-25

加工工程

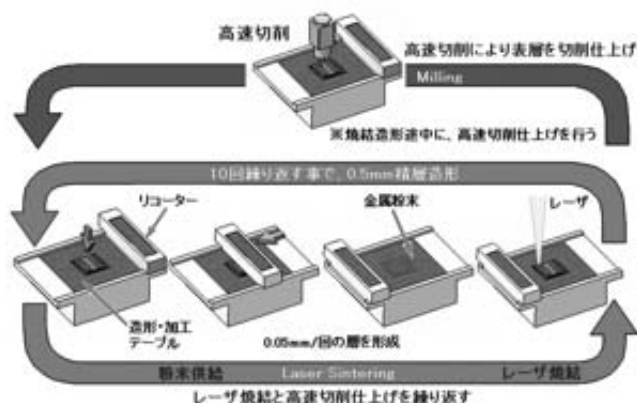
加工工程は、金属光造形（金属粉末をレーザーで焼結）とエンドミルによる高速・高精度切削加工を繰り返しながら造形します。この加工方法により、複雑形状の一体金型・高機能金型の製作を簡単にしました。

(1) スキージング

テーブル上のペースプレートに材料となる金属粉末を0.05mmの厚さに積層。

(2) レーザ焼結

レーザーを照射、金属粉末を製品形状に焼結させ接合。焼結が終わるとスキージングにより次層となる0.05mmの金属粉末を供給し再度レーザーにて焼結。(1),(2)を10回繰り返し、0.5mmの厚さまで積層させる。



(3) 切削加工

0.5mmの厚さに積層された造形の外周をエンドミルによって高速・精密に切削仕上げを行ないます。造形と切削仕上げの繰り返しにより、複雑な形状でも高精度に仕上げる事が可能です。

高度な金型をワンプロセスで

(1) 金型部品の集約

複雑な金型も一体造形するために、金型を分割する必要がなくなります。

(2) ガス抜きのためポラス造形

焼結密度を自由に変えることで、射出成型時のガス抜きのためのポラス（多孔）構造（粗密造形）の配置を行なえ、より効果的なガス抜きが可能となります。

(3) 3次元冷却水管を金型内部に配置

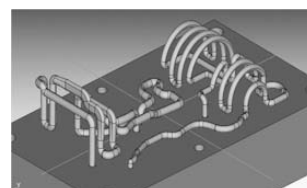
金型の内部に冷却用水管を3次元構造で自在に配置できます。これにより射出成型時間を大幅に短縮出来ます。

(4) 深リブも放電加工レスで造形

金属光造形による積層とマシニングによる高速切削で、深リブ・薄リブも高精度に加工し、放電加工を用いない金型製作を可能にします。



▲電動工具のコア金型



▲電動工具のコア金型内部の3次元水管

地域社会貢献活動の取り組み

■ 福井市明倫中学校2年生の職場体験 ■

マツウラはビジネスで広く海外展開していますが、操業している地域社会への貢献も重要と考えています。その一環として積極的に中学生の職場体験を受け入れています。昨年 7 月 29 日、30 日に福井市足羽中学 2 年生 2 名の職場体験を行ないましたが、11 月 13 日～15 日の 3 日間福井市明倫中学 2 年生 2 名の職場体験を行ないました。受け入れた生徒さんは、大原裕也君と野村勝仁君です。大原君は水泳部、野村君は卓球部と二人ともスポーツ部に所属している元気な中学生です。野村君は、生産本部加工で働く野村慎吾シニアチーフの三男で、学校より父親の働く職場での体験を薦められマツウラでの職場体験となりました。

職場体験は、物流倉庫の入庫作業を行い、様々な部品の受け入れ、また指定された棚へ設置を経験しました。研修が終了し 2 人に感想を聞いたところ、大原君は「仕事の大変さが良く分かった。入庫作業で部品棚を探し、目的の場所が見つかるのが楽しかった。いい経験になりました」と、野村君は「知らないことばかりで緊張し大変でした。沢山の棚から目的の場所を見つけた時嬉しく思いました。是非将来マツウラで仕事をしたいと思いました」と嬉しい返答がありました。担当の久保勝治シニアチーフから「元気な返事で職場が明るくなった。また一生懸命頑張ってくれたので助かった」と労いの言葉がありました。



▲左から野村勝仁君、大原裕也君

■ 坂井市立春江中学校1年生の工場見学 ■

10月22日(火)に坂井市立春江中学校 1 年生 31 名の工場見学を行いました。同校の 1 年生は総合的な学習として、「職業」「生き方」について学んでいます。工場見学することで、働くことがイメージでき、今後スムーズに進路学習が出来ることが期待されています。当日は、会社の概要を説明、2 班に分かれて工場見学を実施。初めて見る工作機械に驚きの声を上げていました。

後日、お礼の手紙が届きましたので一部紹介いたします。

- ・工場見学を通じて、日本の役に立っている工場が身近にあることを誇りに思います。
- ・工場見学の中で特に心に残っていることは、マシニングセンタという、世界に通用する機械が目の前で見れたことです。
- ・工場見学を通して、仕事をする事でお客様の喜んでもらえる嬉しさ、やりがい、大変さについて学ぶことが出来ました。
- ・働くって大変だけど、とても楽しいことなんだと思いました。福井県にこんなすごい世界的な工場があって、ほこりにも思っています。



▲説明を聞く春江中学1年生



▲稼動するマシニングセンタを見て驚く生徒たち。

松浦共栄会 第33期総会



▲松浦共栄会総会



▲講演された瀬賀和也課長

マツウラの部品納入業者、並びに関係協力会社など主要71社で構成される松浦共栄会の第33期定期総会が平成25年11月29日(金)に片山津温泉佳水郷で開催されました。

第一部の総会は浦岩生共栄会会長(株式会社ウラテツ機械社長)の挨拶で始まり、松浦勝俊社長より挨拶と近況報告が行なわれました。続いて松浦共栄会功労者表彰として、株式会社ツチハシの土橋信夫会長と株式会社ニシムラジグの西村明会長が表彰されました。また役員改選が行なわれ、引き続き会長に浦岩生氏、そして副会長に見神幸男氏(株式会社メック・ミカミ会長)が再任されました。

第二部として中部経済産業局地域経済部次世代産業課長の瀬賀和也氏より「中部地域ハケ岳構造創出戦力について」との講演がありました。「中部地域は、自動車産業が中心で産業構造が成り立っています。しかし、新興国市場の拡大、国内市場の減少と海外生産移管、また自動車の電動化など環境変化に直面しています。各企業が余力のある時に、新たな産業創出と産業構造の転換の為に、“中部地域ハケ岳構造創出戦略”を平成22年度より推進しています。創出分野は、次世代自動車、航空機、新ヘルスケア、グリーン・アンド・クリーンとし、これら分野の峰を横断的に支え地域の総合力を向上させる取組です」と講演され、最後に中小企業をサポートするポータルサイト“ミラサポ”の紹介がありました。「ミラサポは、各分野の専門家のデータベースが整備され、オンラインで相談出来ます。また3回まで無料で直接専門家を派遣も行います。国もこのようにサポートいたしますので、是非この制度を使って企業力の強化をお願いします」と結ばれました。

シングルorダブル 午年



社長 松浦 勝俊

2014 年は午年。実は私は1966 年丙午の生まれで今年は年男になります。午は、時の前半が午前、後半が午後、その交差点を正午と言うように日常生活の中では、区切りの基準点(転換点)として使われております。また十二支の中間に位置していて「草木の成長が極限を過ぎ、衰えの兆しを見せ始めた状態・・・」なんて説明書きも見ます。まあそのような解釈よりも、私は仕事柄、勝手に景気が良くなる為の転換点として本年が最高の年になるものと期待しております。長く辛かった円高も漸く峠を越え、2020 年の東京オリンピックも決まり俄然ムードも上がってきました。政府の設備投資減税や補助金の支援もあり、国内の設備投資意欲も徐々に力強さを増してきております。

2013 年4月に米国市場での販売・サービスを100%子会社に切り替えて、お客様とのつながりも一層強固なものになってきました。やるべきことは勿論広範囲で数限りなくありますが、新しいことに挑戦するのは楽しいもので何事にもポジティブに取り組んでいきます。「日本のものづくりは…」と日本を代表するような言い方ができる立場でもないですが、日本人に備わっているDNAには「ものづくりが大好き」と元来書き込まれていると信じております。2014 年は、是非ともものづくりの思いを再認識し、あらゆる品質にこだわり、大きな成果を上げる1年にするものと強く念じて精進して参ります。

また今年はサッカーのワールドカップイヤー。対戦相手も決まり日本代表チームがどんな活躍を見せてくれるのかとても楽しみです。マツウラもグローバル市場で多に活躍できるよう頑張りますので、引き続き皆様のご支援賜りますようお願い申し上げます。

お知らせ

1 平成26年度 松浦機械製作所暦

1	2	3	4
日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30
5	6	7	8
日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31
9	10	11	12
日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31

2 平成26年度 マツウラスクール開催日程

開催予定月	日 程	スクール内容
1月度	14日(火)～16日(木)	5軸加工コース
2月度	4日(火)～ 7日(金)	基礎コース
3月度	4日(火)～ 6日(木)	高速・高精度加工コース
4月度	8日(火)～10日(木)	5軸加工コース
5月度	13日(火)～16日(金)	基礎コース
6月度	10日(火)～13日(金)	マクロコース
7月度	8日(火)～10日(木)	5軸加工コース
8月度	5日(火)～ 8日(金)	基礎コース
9月度	9日(火)～11日(木)	高速・高精度加工コース
10月度	7日(火)～ 9日(木)	5軸加工コース
11月度	11日(火)～14日(金)	基礎コース
12月度	9日(火)～12日(金)	マクロコース

※お申し込みは、各営業所へお願いします。

※予告なく開催日や内容の変更もありますので、お申し込みの際にはご確認ください。



「ローマ法王にお米を食べさせた男」

講談社から出版された

「ローマ法王にお米を食べさせた男」と
の題名の本があります。著者は石川県羽

昨市役所職員である高野誠鮮（じょうせん）氏です。過疎
と高齢化で苦しむ集落を市役所で働く一人の公務員が様々な
アイデアを駆使して活性化していく過程が書かれています。

高野氏は、羽昨市生まれ、科学ジャーナリストやテレビの
企画構成作家として活躍していました。しかし、実家のお寺
を継ぐために故郷に戻り、昭和 59 年に羽昨市臨時職員にな
りました。教育委員会生涯学習課、また農林課に移り、今で
は“スーパー公務員”と呼ばれています。

羽昨市内の神子原（みこはら）地区は、神子原、千石、
菅池の 3 集落からなる農村集落で、高齢化率また離村率も
高い限界集落でした。高野氏が実施したプロジェクトは「空
き農地・空き農家情報バンク」「棚田オーナー制度」「烏帽子（え
ぼし）親農家制度」というものです。神子原地区に若者を集め、
あるいは移住させることで、集落の人達との交流を図り、過
疎集落の活性化を目的としたものです。烏帽子親農家制度と
は、学生など若い人が農家に 2 週間泊まって農業体験をす
る制度です。しかし、旅館業法や食品衛生法に違反すると
のクレームを受け、「あくまでの仮の親子関係である」と主張し、
平安・室町時代の伝統文化「烏帽子（元服儀式の際の加
冠者）」になぞられました。また、募集に「酒が飲める女子大生」
として、夕食時集落の人々と女子大生が酒を酌み交わして話
題となりました。

そして、本の表題となっているローマ法王を活用した米の
ブランド化です。神子原の名前から「キリストが住まう高原」
と考え、ローマ法王にメールを使って接触を開始しました。そ
してバチカン大使から「あなた方の神子原は 500 人の小さな
集落ですね。私たちバチカンは 800 人足らずの世界一小さ
な国なんです。小さな村から小さな国への架け橋を私たちが
させて頂きます」との回答が届き、神子原米はローマ法王へ
の献上が認められました。

高野氏は、その他にも次から次へと新たな手法を生み出し
神子原を変えていきます。様々な障害をプラスに変え、アイディ
アを実現していく行動力に感動する話です。

本号の書き終わり

* 日本工作機械工業会から平成25
年11月度の受注状況が発表されま
した。11月度の工作機械受注額は
1017億円で、3ヶ月連続の1000
億円台となりました。内需は416
億円で前月比7.6%増となり中小企
業からの受注の増加が見られます。
特に、内需はものづくり補助金や消
費税引上げ前の駆け込みの需要効果

あったと思われます。外需は601
億円で前月比5.4%減となりまし
た。1月～11月までの受注総額
は、1兆93億円で12月までの総受
注額は1兆円を超えます。

* 青山眼鏡株式会社の取材では、
17名の会社がシルモドールのグラ
ンプリ受賞していることに驚きまし
た。受賞を取材した私が興奮してい
るのに、青山会長、青山社長とも、
この賞に驕ることなく静かなお二人

でした。取材を進めると常に新たな
挑戦を継続され実現された歴史があ
り、この賞も通過点で次の目標にス
タートされていると感じました。

* マツウラニュースも本号で創刊よ
り33年目となります。今年も皆様
のお役に立てる情報を提供していま
いますので、宜しくお願い申し上げ
ます。

管理本部ゼネラルマネージャー 上村 誠